

第1章 ごみの現状 を考える

増え続ける「ごみ」

ごみの減量化は、日本全体の課題であると同時に
明和町にとっても大きな問題です

24種類の分別収集

私たちの生活からは、毎日たくさんのごみが出ています。

家庭から出る可燃ごみを町では、昭和46年より有料の指定袋で収集を始めた。

町には、ごみ処理施設がないため、町内90か所のごみステーションに出された可燃ごみは、館林市清掃センターで焼却されます。

焼却された後の灰は、民間業者により草津町にある一般廃棄物最終処分場に埋立処理されています。

昭和58年からは、金属類、ガラス類、セトモノ類の分別収集を実施し、その後、廃乾電池、ペットボトル、バッテリーなど、24種類（平成15年度実績群馬県一）と他の市町村より細かく分別し、収集しています。

昭和49年度に家庭から出された可燃ごみは139トンでしたが、平成16年度では1459トンと、10倍以上の排出量となっています。

平成16年度に排出されたごみの内訳を次のとおり示しました。これを見ると70・3%が可燃ごみで、普段のちょっとした心がけで減らすことができる品目です。

平成16年度実績

可燃ごみ	1,459トン
資源ごみ	436トン
不燃ごみ	60トン
粗大ごみ	121トン

平成16年度に排出されたごみの内訳

